

# 村上市景況調査報告

平成28年4～6月期の実績と平成28年7～9月期の見通し

調査時期：2016年6月中旬～2016年7月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 139社（回収率69.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社  
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

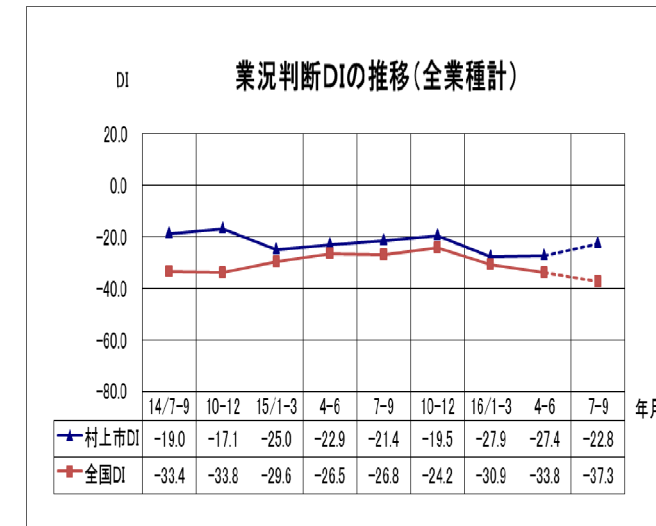
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2016.4～6実績、2016.7～9見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

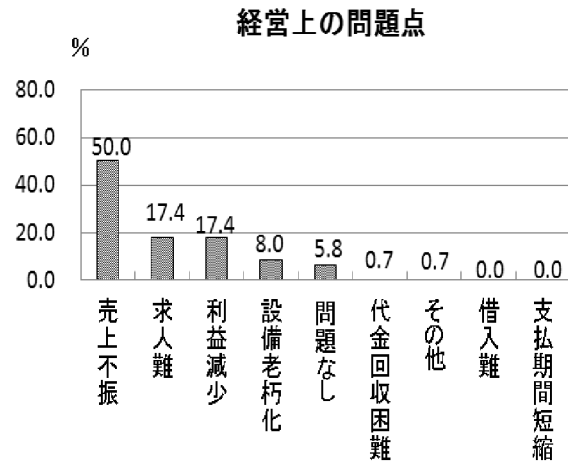
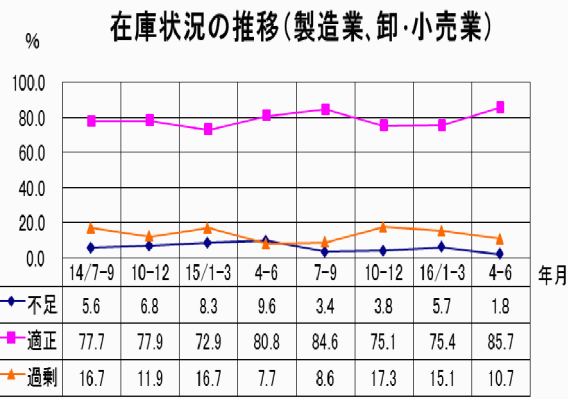
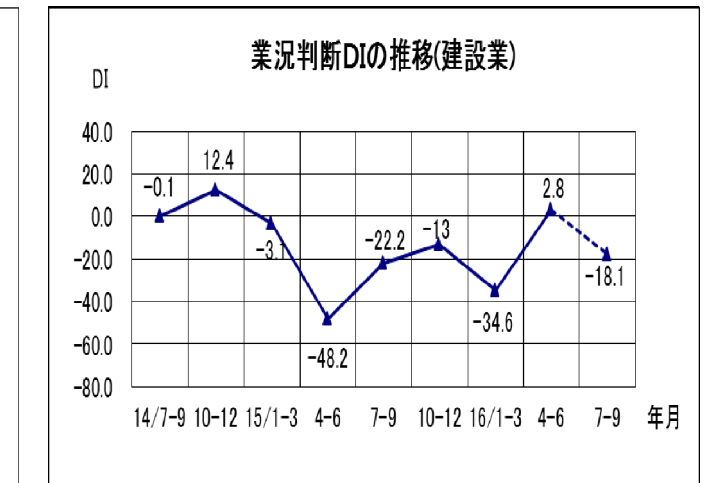
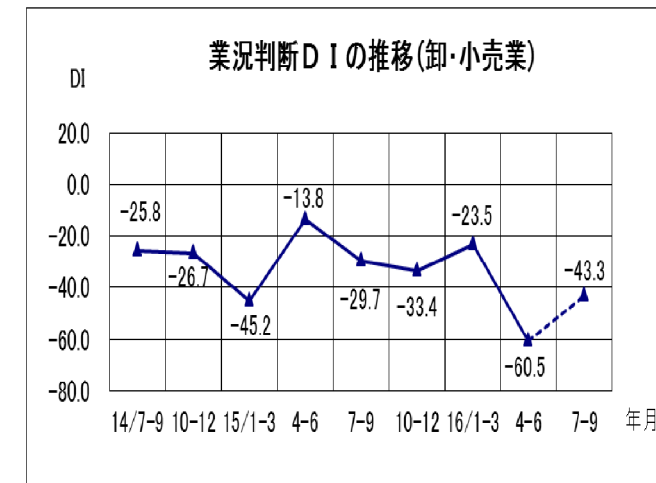
『市内景況は踊り場の様相を呈しており、夏期需要に期待』

村上市の業況

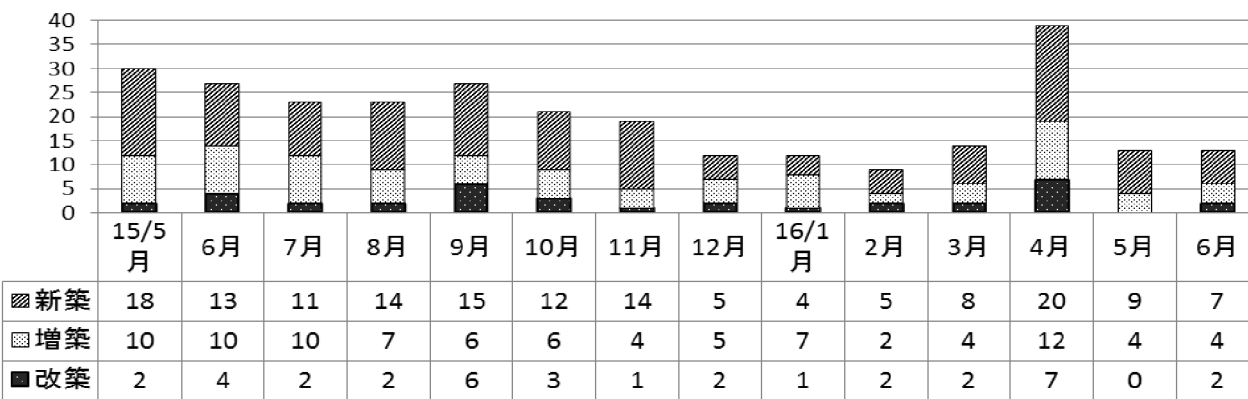


今期(16/4～6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(16/1～3月期)とほぼ横這いの27.4となった。前期における今期予測よりも11.7ポイント下回り、前年同期比でも4.5ポイント下回った。建設業と製造業でDIがそれぞれ40ポイント近く大幅に上昇したものの、他の3業種で低下したため、相殺された格好である。

来期(16/7～9月期)については、4.6ポイント上昇し22.8となる見通しで、卸・小売業、飲食・宿泊業及びサービス業の3業種で改善が見込まれる予定。トップシーズンである夏場の帰省や観光客の増加等に対する期待感や消費増税への再延期による消費者マインドの低下抑制など、DIの押し上げ要因がある一方で、人件費上昇や人手不足感など依然足かせ要因があり注意が必要だ。

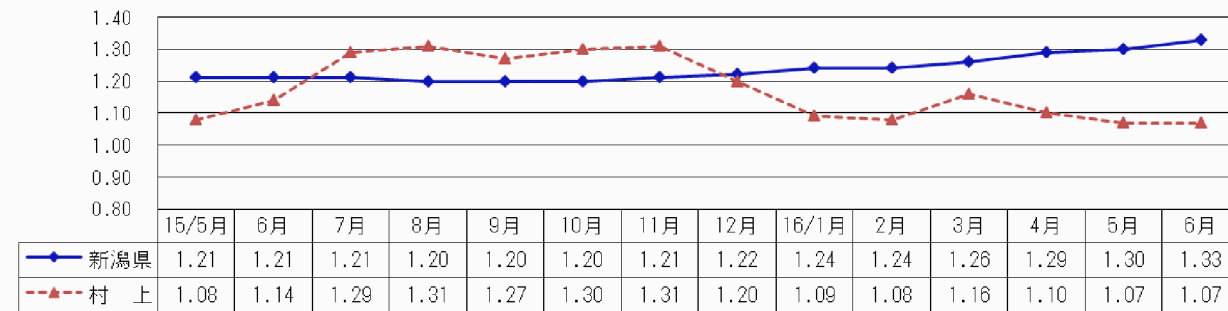


## 建築確認申請・工事届件数

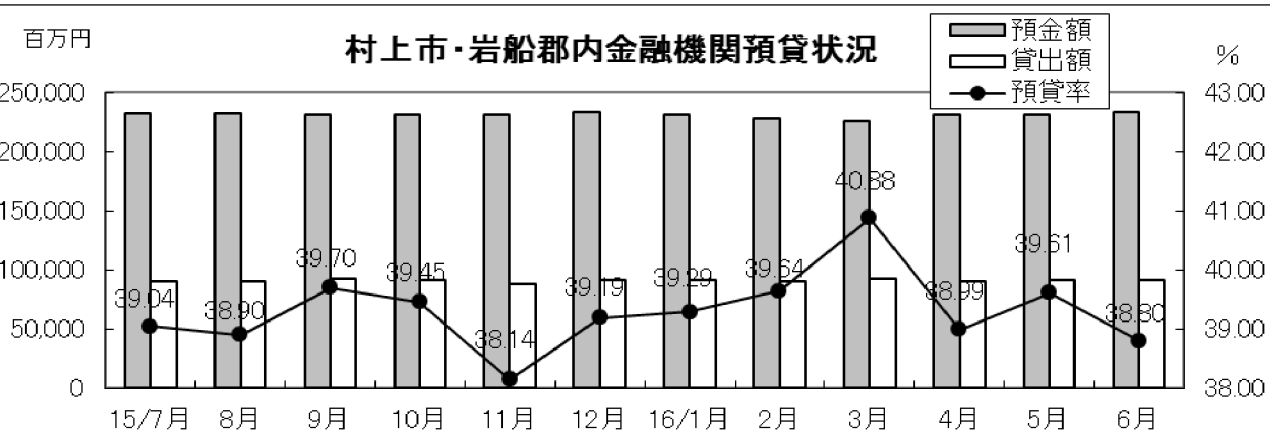


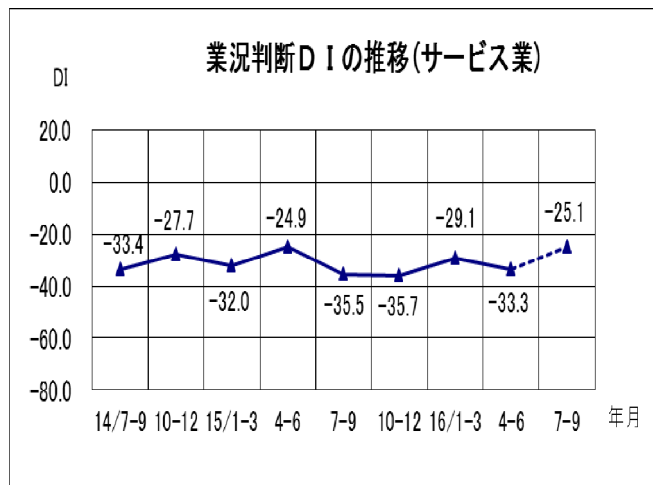
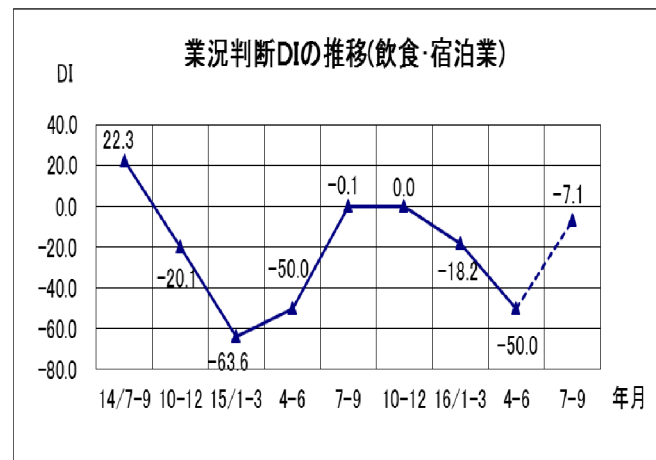
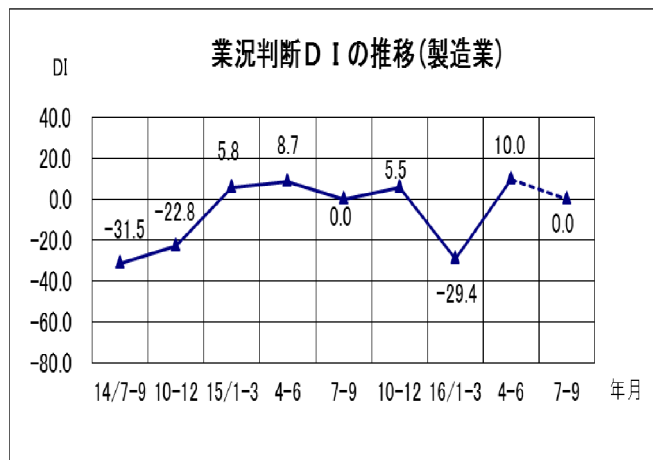
本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

## 村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



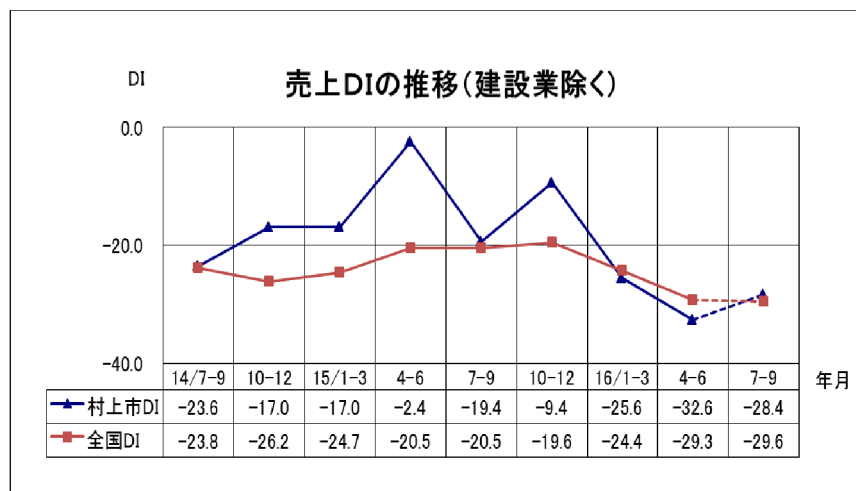
2015年12月以前の有効求人倍率は、新季節指数により改定してあります。





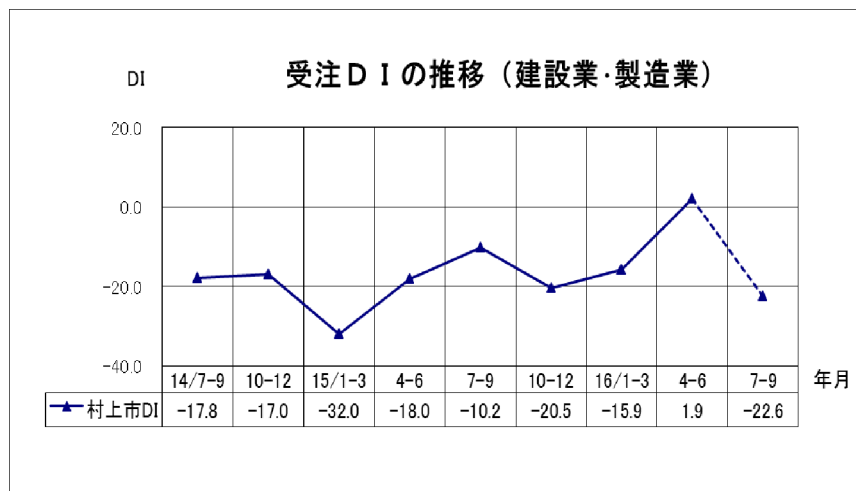
今期の業種別業況判断DIは、前期比で、建設業が公共工事の前倒し発注政策等で受注が増加し37.4ポイント、製造業が市議選の特需や受注増加等で39.4ポイント、それぞれ上昇した。卸・小売業が売上不振、客単価減少等で37.0、飲食・宿泊業が客数減、売上不振等で31.8ポイント、サービス業が来店頻度の減少等で4.2ポイント、それぞれ低下した。

来期のDIは、建設業・製造業以外の業種で上昇する見通し。寄せられたコメントに、提案営業で成果が出てきた(卸・小売業)、公共工事の発注が減少傾向(建設業)、人手不足による生産減少(製造業)、観光客の増加が見込めるが予約照会が少ない(飲食・宿泊業)、求人難、夏休みは人の出がよくなる(サービス業)等があった。



今期の売上DI(建設業除く)は前期比7.0ポイント低下し32.6となった。前期における今期予測よりも9.2ポイント下回り、前年同期比でも30.2ポイントと大きく下回った。低下は2期連続で、全国DIの水準より低くなった。全国DIも前期に比べ4.9ポイント低下し29.3となった。

来期については、4.2ポイント上昇し28.4となる見通し。全国DIは29.6と横這い推移となる模様。

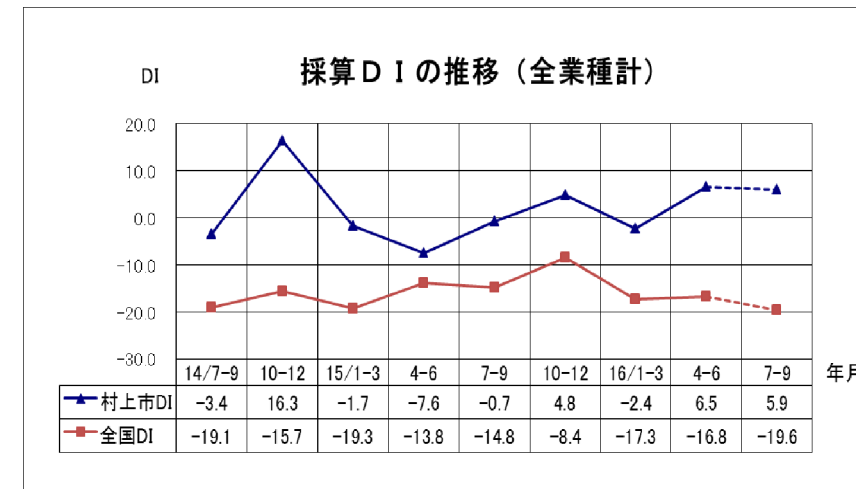


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比17.8ポイント上昇し、1.9となった。前期における今期予測よりも28.5ポイント上回り、前年同期比でも19.9ポイント上回った。今期DIがプラス圏域に入ったのは9期振り。

来期については、24.5ポイント低下し、22.6となる見通し。

DI内訳

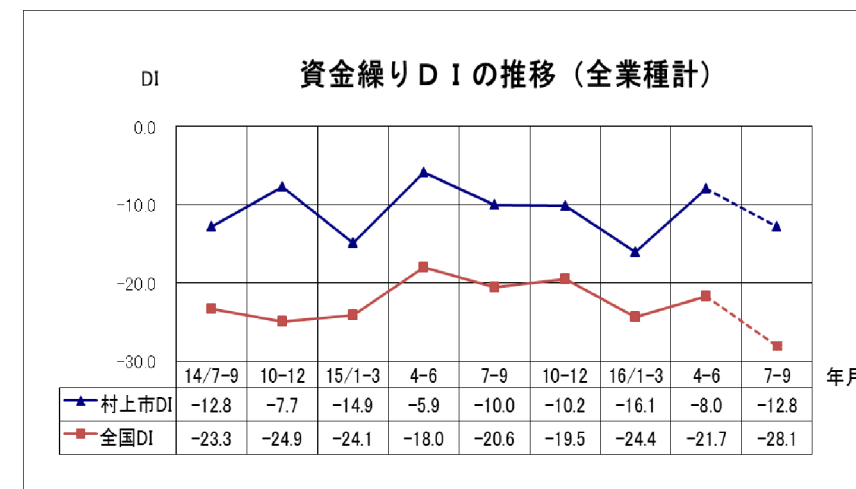
	前期	今期	来期
建設業	17.8	6.1	33.3
製造業	13.4	5.2	5.3



今期の採算DI(全業種計)は、前期比8.9ポイント上昇し6.5となり、プラス圏域に復活した。前期における今期予測より6.5ポイント上回り、前年同期比でも14.1ポイント上回った。

全国DIは、ほぼ横這いとなり16.8となった。

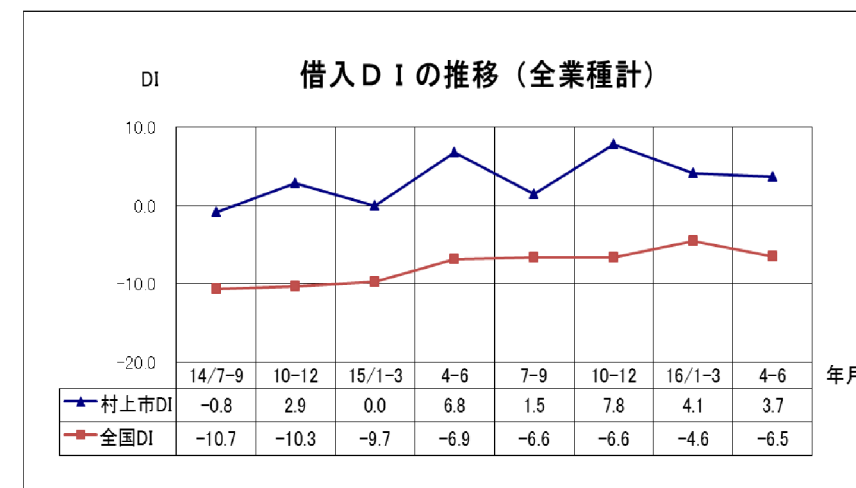
来期については、ほぼ横這いの5.9となる見通し。全国DIは2.8ポイント低下し、19.6となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期比8.1ポイント上昇し、8.0となった。上昇は4期振り。ただ、前期における今期予測より1.3ポイント下回り、前年同期比でも2.1ポイント下回っている。

全国DIも、前期比2.7ポイント上昇し21.7となった。

来期については4.8ポイント低下し、12.8となる見通し。全国DIも6.4ポイント低下し28.1となる見通しである。



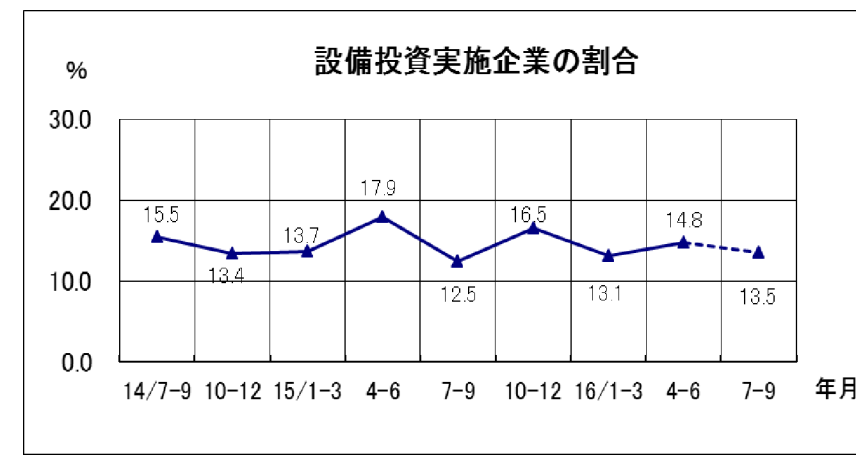
今期の借入DI(全業種計)は、前期比ほぼ横這いの3.7となり、5期連続でプラス圏域に入っている。

内訳は以下の通り

「容易になった」  
 前期 6.5% 今期 5.9%

「変わらない」  
 前期 40.7% 今期 40.4%

「難しくなった」  
 前期 2.4% 今期 2.2%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比1.7ポイント上昇し14.8%となった。ただ、前年同期比では、3.1ポイント下回っている。ここ1年余り一進一退を繰り返している。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、1.3ポイント低下し13.5%となる見通し。